6

環境報告書の基本項目

p.68　外部の方々との意見交換会
p.70　環境ガイドライン対応表
p.71　編集後記

外部の方々との意見交換会

千葉大学ではサステナビリティレポートの第三者レビューとして、毎年、千葉大学のステークホルダーの方々との意見交換会を行っています。

2023 年 8 月 1 日（火）に「外部の方々との意見交換会」を開催しました。参加者は、一般社団法人 SusCon の粟野美佳子代表理事、千葉県環境生活部環境政策課政策室の阿部賢太郎室長、千葉大学教育学部附属中学校 PTA 会長の髙地堯子様、千葉県立千葉東高等学校 2 年生の鵜澤夏海様、1 年生の三井昭澄様の 5 名です。司会は環境管理責任者の倉阪秀史教授が務め、本レポートの編集長である、工学部 3 年の松本梨花と北原隆明が参加しました。

千葉大学の環境マネジメントシステムや取り組みについて

阿部　とてもたくさんの活動をしている上に、それらを学生が取材して本レポートにまとめあげているのが素晴らしいです。おもしろいと思ったのは、エアコンフィルターの清掃を学生委員が有償で行っている活動（p.27）です。こういう活動は無償のボランティアになりがちですが、教職員への意識づけの意味も込めて有料で行うのは、学生目線で良いと感じました。欲を言えば、このレポート内で学生の声をもっと聞きたいですね。また、国際的に日本が競争していくためには省エネ分野での競争力を高める必要があります。大学らしい取り組みとして、研究者の報告がもう少し厚みがあればよいと思います。

髙地　附属学校の保護者としては、大学から光熱費が高いということで、学校環境を整えるために寄付している後援会費が充てられていることが残念です。ですが、RE100 という研究や取り組み（p.8）によって、長期的な目線での変化を目指しているので、現在は、その転換点の手前なのではと思いました。また、大学の敷地内に附属の幼稚園小中学校が揃っていて、子ども達が大学生と関わることができ、自然に SDGs を感じられる素地を作ってもらえていることはありがたいです。地域に住む者としては、街路樹の整備活動（p.43）などの地域貢献をされていることをはじめて知りましたので、本レポートをもっと地域に広めていっていただければと思いました。

鵜澤　SDGs に環境の視点から入ると、ジェンダーなど、環境に直接関係のない項目に目が行かないことが多いですが、千葉大学は環境以外の SDGs にも取り組めています。難しい分野ですが、環境と同じくらい大切だと思うので、こういう取り組みが増えたらいいと思いました。また、掲載されているエネルギー消費量などのグラフは、増加原因については記載がありますが、削減できた要因や取り組みについては書かれていません。そうした情報があると第三者の参考になるのではないかと感じました。

三井　私は附属中出身で中学時代に生徒会に所属していました。その経験から申しますと、昨年度には中学校の環境 ISO 委員会（p.24）の活動として、省エネ啓発のステッカーが校舎内に小さく貼られていたのを見て、もっと大きくやればいいのになと思っていました。学校全体に周知するには控え目すぎます。生徒会や大学との連携を強くしたり、中学生が大学と関わる場を作ったりすると、本レポートにおける附属学校の報告も厚くなるのではないかと感じました。

粟野　学生の環境活動報告書なら良いですが、大学としてのサステナビリティ報告なので厳しいことを申し上げます。学長が環境エネルギー方針（p.3）を立てているようですが、運営組織図（p.12）を見ると、企画委員会が意思決定機関になっています。学長、教職員、学生側の関係性や環境ガバナンスがよくわかりません。実現しているのかも見えません。またマテリアリティの特定を行っていないのではないか。例えば、紙の使用に関しては責任調達ができているか、サステナビリティの研究のために貴重な資源を浪費していないかなど、大学の環境活動のテーマは何なのかを考え、プロセスが欠落しないよう、大学が取り組むべきマテリアリティを見直す必要があると思います。

本レポートの原案について

阿部　告対象者である誰にでも見てもらえるようにするためには、コラムを挟むなど書きぶりに変化を持たせることで、やわらかいところから読んでもらえるかなと思います。例えば、RE100 などの専門用語をコラムにしたり、ニュース的に書いたりする。堅すぎてしまうと普通の人に取ってもらえません。ただ、書きぶりを変えたり、文字を大きくしたりするとページ数が増えてしまうのでバランスが重要です[※1]。

髙地　読みやすいと思いました。ただ、環境面を考えて紙媒体をなくすのもありだと思いました[※2]。デジタル教科書に慣れてきている世代もいます。

鵜澤　高校生が報告対象者に入っていますが、紙媒体でも PDF でも高校生には読みづらいと思います。すべてを理解するのは高校生には難しい内容ですが、特に何を読んでもらいたいのかが伝わってこないです。デザイン前の原案ですが、章の移り変わりが淡泊だったり、色が少なかったり、字が小さかったり、また、少し緩い内容がないと読み切れないので、ターゲットに高校生を入れるのであれば、そこを考えてほしいです。

三井　このレポートの作成の目的は記載されていますか？環境配慮促進法で作成が義務付けられているから作成しているのではなく、作成側の想いが感じられないと読む気になりません。作成の目的を明確にしてレポートに記載するべきではないかと思いました[※3]。

粟野　環境エネルギー方針にそって章立てすることに歪みが生じていると感じ、非常に読みづらかったです。同じような情報がばらばらに記載されています。具体的には、企業との連携のファッションに関する記事が、３章にも４章にもでてきました。普及啓発なのであれば、地域との協同、展示活動などと共にまとめればよいのではないでしょうか。大事なことは、エグゼクティブサマリーを作るとしたら、どこを抜くかということです。サマリーを作るということは、結局、テーマ（軸）が何か、予算をかけているものは何か、ストーリーとしてわかる必要があります。大学としての軸を見直した方が良いと思います。また、特集の位置づけがわからず、話題になったことを集めただけになっており、章ごとに出てくることにも違和感があります。この章立てが読者の理解促進につながるかについては、もう一度考えた方がよいと思います[※4]。

千葉大学の今後の環境活動に対して期待すること

阿部　啓発活動は結構難しいので、学生が入学してから卒業するまでに、どれくらい意識が高まったか、何をやったら高まるのか、といったデータをとってみてほしいと思いました。

髙地　附属学校を巻き込んで活動することがあると思いますが、大学を巻き込んで一緒に教育に関わる活動を行っていただければと思います。

鵜澤　いろいろなことに手を出していますが、広く浅くになっている印象があります。年度や時期によって行わなければならないことは変わると思いますので、今年度はこれに注力しようといった選択をしていくのが現実的と思います。附属学校の取り組みとしては、もっと大学生が中学生と意見交流する場があっても良いと思いました。

三井　もっと高校生以下を巻き込んだ活動をしていただけたら、みんなが興味を持つと思います。附属小中学校の生徒は意見を持ってて言える人が多いのでもっと交流をしてほしいです。

粟野　千葉大学は気候変動条約の締約国会議の参加資格を取っていますか。ユースの声を政策担当者に届けるべく、学生を大学の予算で、そうした国際会議に送り込むこともできるのではないでしょうか。環境教育の一環として、日本の報道ではわからない、実際に世界ではユースがどう声をあげているか、どのように活躍しているのかを体験させること。環境教育はそういうステージになっていると思います。

※1、3、4　次年度以降の参考にさせていただきます。　※2　紙媒体の印刷数は減らし、必要最小限にしています。

環境ガイドライン対応表

このサステナビリティレポートは環境省による「環境報告ガイドライン 2018 年版」に対応しています。

環境関連報告書の基本情報	該当ページ	記載されている章 (見出し)
1. 環境報告書の基本要件		目次 (編集方針)
2. 主な実績評価指標の推移	26-31 65	脱炭素キャンパスを目指して、循環型キャンパスを目指して、物質収支、物質収支詳細データ（※千葉大学 Web サイト参照　https://www.chiba-u.ac.jp/general/approach/environment/）

環境報告書の記載事項	該当ページ	記載されている章 (見出し)
1. 経営責任者のコミットメント	2-5 8	千葉大学憲章、千葉大学環境・エネルギー方針、学長からのメッセージ、長期ビジョン
2. ガバナンス	12-14	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	22-24 35 36 39-48 52-56 68-69	学部・大学院での環境教育、附属学校における環境教育・環境活動、大学を支える事業者の SDGs への取り組み、企業・行政と連携した SDGs 活動、墨田区と連携した SDGs 啓発活動、地域社会と環境に関する交流、国内外における発信・交流活動、NPO 法人としての取り組み、大学における社会的な取り組み、学生活動における社会的な取り組み、外部の方々との意見交換
4. リスクマネジメント	12-14 60-63	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧
5. ビジネスモデル	1 18-23	大学概要、SDGs・環境に貢献する最先端の研究、学部・大学院での環境教育
6. バリューチェーンマネジメント	26-31 60-63	脱炭素キャンパスを目指して、循環型キャンパスを目指して、環境目的・環境目標と達成度評価一覧
7. 長期ビジョン	8	長期ビジョン
8. 戦略	3 8 12-14	千葉大学環境･エネルギー方針、千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、長期ビジョン
9. 重要な環境課題の特定方法	12-14 60-63 64	千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧、環境関連法規制等の順守状況
10. 事業者の重要な環境課題	2 3 12-14 60-63 65 66	千葉大学憲章、千葉大学環境・エネルギー方針、千葉大学の環境マネジメントシステムの概要、環境目的・環境目標と達成度評価一覧、物質収支、環境会計

主な環境課題とその実績評価指標	該当ページ	記載されている章 (見出し)
1. 気候変動	26-27　65　66	脱炭素キャンパスを目指して、物質収支、環境会計、物質収支詳細データ（※）
2. 水資源	26-27　65　66	脱炭素キャンパスを目指して、物質収支、環境会計、物質収支詳細データ（※）
3. 生物多様性	32　40-42　48	自然共生キャンパスを目指して、企業・行政と連携した SDGs 活動、NPO 法人としての取り組み
4. 資源循環	65　66	物質収支、環境会計、物質収支詳細データ（※）
5. 化学物質	33-34　65　66	安心安全なキャンパスを目指して、物質収支、環境会計、物質収支詳細データ（※）
6. 汚染予防	64　65　66	環境関連法規制の順守状況、物質収支、環境会計、物質収支詳細データ（※）

編集後記

千葉大学のサステナビリティレポート（旧環境報告書）は、初めて発行した 2004 年度から継続して環境 ISO 学生委員会が原案作成・編集作業を担当しています。各種環境・財務データや記事寄稿、校正などで教職員が協力して完成に至ります。

環境管理責任者より

倉阪秀史 大学院社会科学研究院　教授（環境管理責任者 < 教員系 >）

千葉大学では、2003 年 10 月に、当時の磯野学長がキックオフ宣言を行い、2014 年度から主要キャンパスにおいて、国際規格に則った形で順次環境マネジメントシステムを導入しました。学生主体で進められたこのシステムも今年で 20 年になります。このレポートが広く読まれることによって、千葉大学の取り組みを広く知っていただければ幸いです。

木村貴彦 施設環境部長（環境管理責任者 < 事務系 >）

2004 年度から 19 冊目となる「サステナビリティレポート 2023」が完成いたしました。作成にご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。法人として EMS 体制をより強固にするため、2023 年 4 月に「千葉大学環境マネジメント規程」を制定しました。役職員・学生は EMS マニュアル等を遵守し、環境・エネルギー方針に基づく目標の達成に努めることが規定されました。今後とも構成員一丸となって EMS 活動に取り組んでまいります。

編集担当者

編集長　松本梨花（工学部３年）、北原隆明（工学部３年）

「千葉大学サステナビリティレポート 2023」をご覧いただきありがとうございます。千葉大学の環境報告書は今回で 19 冊目の発行となります。「サステナビリティレポート」に名称を変えて 5 冊目になる今年は、SDGs の各目標への取り組みを見やすくするために該当一覧表（p.7）を作成しました。千葉大学の様々な活動への理解を深めていただき、社会全体の SDGs の目標達成に向けた取り組みの促進に貢献できたら幸いです。本レポートの作成にご協力いただいた、多くの教職員の方々、インタビューにご協力いただいた方々、掲載データをご提供くださった方々、デザインにご協力いただいた方々、その他全ての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

環境 ISO 学生委員会　サステナビリティレポート 2023 編集部
今井佳枝、大石玲奈、小野萌菜、門野美佳、佐々木七菜、二瓶萌梨、福島みう、古谷那奈、山本怜奈

デザイナー　佐治 奈津子（工学部 4 年）　**アクセシビリティチェック**　矢野裕之

編集・校正サポート　岡山咲子　国際未来教育基幹　助教

取材・執筆等協力者（敬称略・五十音順）

教職員　安藤藍、伊藤智義、泉利明、泉康雄、内山直樹、江頭祐嘉合、岡久美、奥平幸司、小倉裕直、北城敬子、境麻美子、鮫島隆行、鈴木雅之、富樫辰也、中嶋央子、中山俊憲、仁科淳司、水島治郎、山﨑敏裕、米村千代、環境 ISO 企画委員の皆様

環境 ISO 学生委員会　荒井瑞穂、石川朝陽、梅田あかり、大塩紗綾、大島美和、岡田雪寧、尾島優希、門崎琴美、金井茉央、金澤篤、金澤志旺、金澤瞭、日下部朱音、小藤那奈子、阪本活美、坂本実優、佐々木淳大、佐藤亜美、佐藤大生、信太郁美、篠宮千里、清水陽人、白鳥宏静、鈴木ほの香、鈴木優華、高柳美礼、月山翠、戸井田俊介、鳥羽翔大、飛田芽依、冨田明花、中島朋幸、中村千博、西谷早紀、根本大雅、根本美香、長谷川佳恵、平川菜苗、深瀬愛彩音、福岡裕介、細山田直誠、山口葉月、横田里穂

一般学生・院生　泉夏帆、楳澤勇希、勝田真一、神谷有咲、西條未来、柴田昇吾、鈴木結理、関口真輝、玉腰千紘、寺島風美花、長谷川綾香、山岸朱里

その他　阿部賢太郎、鵜澤夏海、キョウワプロテック株式会社、粟野美佳子、櫻井翔太郎、下田沙織、髙地堯子、瀧一馬、林功、三井昭澄、三津山京、吉田憲司

本レポートの環境配慮

本レポートは PDF で千葉大学 Web サイトにも掲載することで、印刷冊数は必要最低限としています。さらに、FSC® 認証のついた用紙の使用や植物油インキの使用など、印刷の工程でも環境への配慮をしていただける印刷会社に発注しています。